



# 落穂会だより

春季号 2017.4

社会福祉法人 落穂会

|   |                                    |                                       |                                      |   |
|---|------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 障害児入所施設<br>あさひが丘学園<br>(Tel 238-4821)<br><a href="http://www.asahigaokagakuen.jp/">http://www.asahigaokagakuen.jp/</a> | 障害者支援施設<br>あさひが丘<br>(Tel 238-4821) | 地域生活支援センター<br>あさひが丘<br>(Tel 243-1112) | 障害者支援施設<br>旭福祉センター<br>(Tel 244-3551) | 障害福祉サービス事業<br>第二旭福祉センター<br>(Tel 244-3551) |
|---|------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---|



## 「シユバルの現状とクラブハウスの開設について」

統括副施設長 水 流 かおる

平成二十七年十月プレオープン、平成二十八年六月にグラウンドオープンをしたあさひが丘乗馬倶楽部シユバルですが、現在は、放課後等デイサービスシユバルの利用登録者数二十五名、ホースセラピーの契約者六十八名（児童発達十一名、放課後等デイサービス二十八名、生活介護十九名）となり、シユバルでは日々子どもたちや利用者の方の笑い声が響くようになりました。

ホースセラピーとは、馬との触れ合い、引き馬、個別のレッスン等を総称するもので、馬のお世話もホースセラピーに含まれる等、馬との関わりすべてがセラピーにつながるといふ考え方に基づいています。晴天の時ばかりではないため、雨天時のレッスンはできませんが、厩舎での馬との触れ合いやお世話を通して、「誰かのために何かをしてあげる」「相手の気持ちを考える」という経験により子どもたちの心も育っているように感じられます。

また、短期間ではありますが、ホースセラピー中、馬に乗ることで「姿勢が良くなり、転びにくくなった」「落ち着いて過ごす時間が増えた」「他の動物も怖がらなくなった」など、ご家族からの嬉しいお話も出てきています。

念願のクラブハウスも平成二十九年四月には完成し、より良い環境で馬との触れ合いが持てるようになりました。今後安全であることを最優先し、シユバルがホースセラピーを通して子どもたちや利用者の方の豊かな心を育み、生活に潤いをもたらすような存在になっていければと考えています。

### 新任職員紹介

◆障害者支援施設あさひが丘  
手打 孝之介 支援員  
二月から入社しました。利用者の方々のために頑張っています。

東山 光彦 支援員  
利用者の皆さんが、気持ちよく日々を過ごせるよう支援を心掛けたと思います。

内村 拓馬 支援員  
今年度より入社しました。明るく元気に支援に努めていきますので、よろしくお願ひ致します。

上 園 久美子 支援員  
年を重ねてからのご縁に感謝！早く一人前になるよう頑張ります。

野村 菜七 支援員  
何事にも一生懸命取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

◆地域生活支援センターあさひが丘  
遠矢 真由 保育士  
少しでも仕事を早く覚え、常に明るく笑顔で一杯頑張ります。

### ～ありがとうございました～



全日本自動車産業労働組合総連合会、鹿児島地方協議会様より、空気清浄器、ドライヤー他たくさんのお品を寄贈していただきました。大切に使用させていただきます。心より御礼申し上げます。

上 戸 菜津美 保育士  
子供達と毎日楽しく過ごせるよう、笑顔をやささず頑張ります。

田端 直美 支援員  
少しでもお役に立てるよう頑張ります。宜しくお願い致します。

### 第5回「福祉に対する私たちの想い」スピーチコンテスト入賞

平成29年1月18日(水)に開催された、第5回「福祉に対する私たちの想い」スピーチコンテストで、グループホームももかに入居されている古田亜美さんが、「動くということ」という演題で見事、鹿児島県社会福祉法人経営者協会会長賞を受賞されました。

古田さんは、今回のコンテストに向けて、何度もスピーチの練習を行いました。舞台上にあがると、少し緊張した様子がみられましたが、練習の成果を発揮し、堂々としたスピーチを披露してくれました。




ベーカリー・カフェのどこかではFacebook/Instagramを開設しました。随時料理やパンなどの情報を更新します。ぜひ検索してみてください！

Facebook → Café Nodoka  
Instagram → fu\_nodoka

◆ 行事報告 ◆

○1月6日(金) 県知的障害者福祉協会主催 新成人を祝う会
あさひが丘から3名、GHから1名の計4名の利用者に、保護者3名職員2名で参加してきました。緊張の中、最後まで無事終えることができました。

○1月9日(月) グループホームあさひが丘 新年会
パレスイン鹿児島にて、グループホーム新年会を行いました。利用者34名、職員22名が参加し、美味しい食事と少しのお酒、カラオケや抽選を楽しみました。

○1月14~15日(土・日) 家族並びに施設職員研修会
あさひが丘から保護者3名、職員2名が参加しました。他事業所の職員や家族とお話ができるとても貴重な会でした。

○1月22日(日) 旭福祉センター 新年会
サンロイヤルホテルで利用者・保護者を含めた新年会を行いました。みなさん、今年の目標を語り合ったり、カラオケや抽選会を楽しみました。

○1月28日(土) 日中活動参観・懇談会
あさひが丘では、23家族25名の方が来園されました。一緒に活動に取り組む中で、「職員の工夫がよくわかる」などの言葉を頂きました。

○1月28~31日(土~火) ナイスハートバザールin鹿児島
山形屋で開催されたナイスハートバザールに出店しました。旭センターで作った陶芸品や野菜、菓子を販売しました。当日はみんなで買い物に出かけ、自分たちの作ったものが販売される所を実際にみることで良い刺激になったようでした。

○2月12日(日) 放課後等デイサービス我路・シュバル合同保護者会
を行い、保護者19家族20名の参加がありました。センター長からの講話の後に小学部・中高等部に分かれての茶話会を行い、活発な意見交換が行われました。

○2月13日(月) 楽しい大正琴発表会
旭福祉センターでは、大正琴の発表会に参加しました。

この日のために一生懸命練習してきたことを発表し、みなさん達成感でいっぱいでした。

○2月18日(土) あさひが丘学園バイキング誕生会
今年度から年に1回の開催となりました。定番の唐揚げやハンバーグに加え、普段あまり口にしない料理の数々に大いに盛り上がりました

○2月21日(火) 歩路・セルク・トリアの3事業所で合同保護者会を行い、22名の保護者の参加がありました。保護者会では療育開始から就学までの流れについて、3名の保護者から実際の経験を交えながらお話があり、その後の茶話会でも積極的な意見交換が行われました。

○2月25日(土) 第二回あさひやワークショップ
詳細は4ページをご覧ください。

○2月26日(日) 3月4日(土) 12日(日) 旭福祉センター 一日旅行
指宿方面へ3コースに分かれて旅行に出かけました。砂蒸し温泉や、ヘルシーランド・釜蓋神社などそれぞれ楽しみました。旅行から帰ってきたあとは違うコースの人たちと思い出を語り合っていました。

○3月2・3日(木・金) 農福連携マルシェ
アミュ広場で行われたノウフクマルシェに野菜・陶芸品・菓子を出品しました。多くのお客さまに旭センターでの活動を知っていただく良い機会となりました。

○3月7・8日(火・水) 吉田南中職場体験
今年も、あさひが丘へは5名の生徒さんが職場体験に来てくれました。始めは緊張もあったようですが、2日間を通して楽しい時間を過ごす事ができました。

○3月10日(金) 鶴丸高等学校 医療福祉施設訪問学習
今年も総勢47名で職場訪問にこられました。それぞれ日中活動やあすもねの各グループにわかれ、交流をしました。

平成二十九年 運営方針

◆あさひが丘学園 ◆障害者支援施設あさひが丘 ◆地域生活支援センターあさひが丘 ◆ガーデンキッズ

統括施設長 水 流 純 大

あさひが丘関係施設における今年度の重点目標は以下のとおりである。

【重点テーマ】

- ①職員は利用者の笑顔のある暮らしを支える「よき隣人」であること。
②施設は利用者が暮らす地域社会との関係を深めること。

【重点目標】

- (一) 地域貢献活動
①身近な地域との関係づくり
地域の中で生活している利用者、職員であることを自覚し、日頃からの地域住民への挨拶、地域の清掃活動、会議室等の施設開放、地域行事や定例会等への参加等を行う。また、あさひやワークショップを定期的に開催し、地域住民との交流を図る機会を積極的に展開する。
②社会生活を営むことに困難を抱えている人々への支援
社会福祉法人の役割として、地域における公益的な取り組みを実施

- 実施する責務が求められることから、NPO法人と連携し生活困窮者への支援に取り組む。
(二) 上質で快適な生活
①生活環境について
より快適な生活が送れるように利用者のニーズに応じた「落ち着ける空間作り」「潤いのある空間作り」に取り組む。
②食事について
より家庭的な雰囲気を大切にしながら、季節を感じられる食事や行事食を取り入れ、適時・適温の食事の提供に努める。

【重点目標】

- (一) 組織間連携の充実を図る
①チーム内、チーム間、部門間、事業所間連携について、正確な情報共有と決定事項の確認を念頭において取り組む。
②各種会議の質の向上について、職員からの発言が多く出るように工夫を行う。
③会議での決定事項の確実な実行の

- ③緊急時の対策として自治会との連携を図る。
④ヒヤリハット報告の提出を推進し事故を未然に防ぐことに努める。

(五) 地域社会に向けての

取り組みの充実を図る

- ①児童発達支援センターにおいて公開療育を実施するとともに、保健センターや近隣の幼稚園・保育園、児童発達支援事業所との連絡会を開催する。
②秋まつりを開催する。今年度は、地域の方が参加できる企画や店舗スペースを設ける。
③「あさひが丘サポーター制度」の充実を図る。
④新たに作成したパンフレットを活用し、広報活動に努める。
⑤HP、FB等のSNSを活用し、タイムリーな情報発信を行う。
(六) 新事業の円滑な運営と新たな事業展開のための施設整備を行う。
①「ももか」を新築ホームに移転する。
②平成三十一年四月開設予定の新たなグループホームの開設準備を行う。
③教育棟の耐震工事及び改築工事を行う。また教育棟前の舗装工事を行う。
④成人棟及び旧児童棟(現成人部3寮)の外壁等補修工事を行う。
⑤機能訓練棟の耐震診断を実施し、必要に応じて耐震工事及び床張替等の改修工事を行う。
⑥新たな作業棟の建設について、日

# 「100人」



旭福祉センター 利用者 鶴之園 正一

旭センターを九じにでておのだけにいきました、てんぼうだいのぼつて、ながめがよかったです。タツノオトシゴハウスにはじめていきました。たつのおとしごをみました。とてもおもしろいでした。またいきたいです。ひろごはんはばいきんぐでいろんなものをたべました。おいしいでした。かまふたじんじやにいってからさんばいをしてからあたまにふたをせてあるきました。ゴールがわからなくてむずかしいでした。アグリランドえいでゆうぐであそびました。とてもおもしろいでした。かいもんだけがきれいにみえました。いいてんぎでした。ぼくは山川にじつかがあります。えんそくにいつたのしいでした。旭センターにかえつてからバスのそうじをしました。つかれました。らいねんはフラワーパークにいきたいです。

## 「新たな春を迎え」



地域生活支援センター 保護者 前田 城輔

私は前田崇志の父親でございます。平素は地域センターのスタッフの皆様

様、学園の皆様、ホーム同居の方々をはじめ、たくさんの方々にあらゆる場面で世話になっており、先ずは御礼を申し上げます。

さて、今年九月に崇志は満二十二歳を迎えます。武岡台養護学校高等部一年時の四月より学園に入所し、高等部卒業（三年時に鹿児島養護学校に転入）後、平成二十六年六月一日付で、グループホームとんぼ丸に入居し、現在に至っております。なお、学園に入る前にも、シヨートステイ等で小学部低学年時よりお世話になっていた経緯もあります。

平成二十三年四月、家内の急逝に伴い、新たな家庭生活の再構築に頭を痛め、困難な状況にあつたところ、当時の武岡台養護学校の教頭先生のお口添えを頂き、速やかに学園に入所できたことが、極めて大きな幸運だったと思っております。

入所の手続きにお伺いいたしましたところ、懇切丁寧なご説明をくださり、将来に対する不安を掻き消し、何か一筋の光が差したような気分になったのを、今でも鮮明に記憶しています。

早いもので、学園に入所してから約六年間が経過しましたが、毎月の帰省時やお盆・お正月の帰省時に常に感じるのですが、一度たりとも、崇志の顔から笑顔が消えたことが無いのが、最も嬉しいことであります。

思うにそれは、崇志が、常に周りの皆さんに支えてもらい、愛情を頂いているからだど強く感じ、とても感謝しております。

と同時に、多大なご迷惑をお掛けしていることは重々承知しておりますが、少しずつですが、集団生活を通じ、一員であることの意識が形成されつつあることに成長を感じ、私の大きな喜びにもなっています。皆様様方、今後とも、よろしく、お願いいたします。

## 「大切な言葉」



地域生活支援センター 職員 藤山 千春

「女の子は笑いなさい」「明けない夜はない」「愛とは、、、」これは私が大切にしている言葉です。人生の節目に両親や先生から送られた言葉です。いつも心のどこかにある言葉で、悩んだ時や落ち込んだ時に思い出し、元氣や勇氣をもらっています。

一つ目は、両親から言われ続け育った言葉です。人なつっこい性格ですが、短気ですぐ怒る、ふてくされる、嫌な事は顔に出してしまう子供だったようです。将来を心配し愛嬌のある人になつてほしいとの両親の願いがあったのだと思います。両親の願い通りに女性になれたのかは分かり

ませんが、仕事をする上で大切にしている言葉です。

二つ目は、小学校を卒業する時に母から贈られた言葉です。中学、高校と進み、体だけではなく心が成長する中で、辛い今日でも必ず夜明けが来る。だから真つすぐ前を向きなさい。そして一人で悩むことはない、私達（両親）がいることを忘れないでほしいというメッセージでした。実際に何度もこの言葉に励まされて今の私があると思えます。

三つ目は、中学の担任の先生がクラス全員に贈った言葉で、当時は「愛」なんて言葉はテレビの中だけで使うものだと思っていました。しかし、これには続きがありました。しかし、多くのことをより厳しく要求すること、最後まで味方になれること」と続きます。当時から大人になった今でも難しく、なかなか実践できていません。

私は今、ヘルパーとして利用者一人一人と向き合いながら支援しています。落穂会の経営理念で共生と共創とあります。その理念の中の「笑顔のある日々の暮らし」とありますが、私を支えてくれた周囲の言葉を胸に、今度は私が、利用者の笑顔のある暮らしを支えることができます。う頑張りたいと思います。至らない面が多々ありますが、今後もよろしく申し上げます。

中活動の体制変更を含めて検討をおこなう。

## （七）利用者の権利擁護の取り組みを推進する。

### ◆旭福祉センター ◆第二旭福祉センター

#### 第二旭福祉センター施設長 水流 健一

昨年三月三十一日に社会福祉法の一部が改正され、平成二十九年四月に完全施行を迎える社会福祉法人制度改革であるが、その中で「地域における公益的な取組を実施する責務」が規定された。これは、私たち社会福祉法人が地域と密接に繋がり、地域に必要とされているサービスを提供していく取り組みが使命であると、改めて示されたことでもある。そして同時に民間他社とのイコールフットイング論を明確に区別できる重要な鍵とも言えるだろう。私たちは制度改革への対処をしっかりと行い、今後も利用者様から選ばれる施設として更に発展していくよう職員が一体となって職務に当たる所存であります。今年度は下記の重点目標を掲げ、更なる資質の向上を図って参ります。

#### ①利用者のニーズに合わせた支援の提供

利用者の個別ニーズを作業・生活両面からの視点で的確に把握し、ニーズに合った短期目標・長期目標を支援計画に掲げ利用者支援の向上を図

る。今年度は特に生活介護事業における支援カリキュラムの見直しを行う。また、支援実践面では基本に立ち返り「より丁寧な声かけ」を実践テーマとして掲げ、より充実した支援体制を確立させる。

#### ②家族との連携強化

年三回の家族代表者委員会、毎年八月の家族総会、一月の新年会など家族との連携を強化する。また、福祉施策の動向について家族への情報提供を行う。

#### ③職員の育成システムを確立する

新人の育成システム（育成シート）を完成させる。①倫理・行動面（職員行動チェックリストの運用）について今年度も確実に実施する。②作業面（作業班別育成シートの完成と実施）育成シートについて全作業班のシートを完成させる。また、実施状況の確認及び見直し対策として作業委員会主催による作業育成担当職員との協議の場を設け、育成面の質の向上を図る。③中堅職員育成計画を開始させる。今年度は二回程度の研修とグループディスカッションを実施予定である。

#### ④就労支援に関する情報収集・強化

昨年度に引き続き就労移行支援事業についての体制強化を図る。特に今年度は就業移行支援マニュアルの作成と、現場においてのマニュアル実施活用を図り、就労希望者のスキル向上に繋げたい。また、昨年に引き続き先駆的な事業所などを訪問・

見学し、この分野における研鑽を深めていきたい。

#### ⑤地域密着型施設としてのサービスを推進

地域に密着した施設を目指し積極的に地域行事や地域活動に参加する。入所施設・第二作業所・各グループホームエリアの近隣住民との交流を深めるよう努める。また、ベーカーリー・カフェNODOKAエリアにおいては地域住民との直接的な接点である利点を活かし、より一層の地域交流に努めていく。

#### ⑥各種作業部門 製販計画の達成

各作業班が策定した製販計画の達成を目指す。特に今年度は一昨年スタートした各作業班別の作業育成シートの完成及び完全実施を重点目標と定め、確実な計画の達成を目指す。

（各作業班別 重点目標）  
※NODOKA：集客率アップ（宣伝・接客向上）  
※竹工：職員の協力体制の確立・利用者支援の充実と支援技術の向上

※蔬菜：人材育成（育成シート活用）・地域との交流  
※菓子・楓：販売促進（人材育成・商品スキル向上・協力体制の確立・報連相確）

※陶芸：個々の表現力の向上  
※メンテナンス：育成シートを活用した人材育成・医療関連サービス書類整備  
※味噌：人材育成（育成シート活用）・販路拡大

## 楓・のどかが、かごしま子育て支援パスポート事業協賛店となりました！

パスポートをご提示頂くと、割引特典が受けられます！

- ベーカーリー楓：菓子パン（130円以下）1個プレゼント
- カフェのどか：幼児以下 パン1個サービス
- 小学生以下 ドリンクサービス
- 育児の日（19日）ランチ5%割引

その他にもベーカーリー楓・カフェのどかではお子様連れのお客様に快適にご利用いただける空間として、新しく授乳室・キッズスペースとお手洗いにおむつ交換台を設置しました。ご来店の際はぜひご利用下さい。



←授乳スペース

キッズスペース→



2月25(土)あさひが丘学園にて「第2回ASAHIYAワークショップ」を開催しました。当日は、10家族29名という多くの方に参加して頂きました。第1回目に引き続き、陶芸体験では講師として旭福祉センターから2名(旭福祉センター利用者:森田さん、岩元さん)を招き、電動ろくろや手びねりでの茶碗や湯呑み等、オリジナルの創作品製作をしました。



さらには、今回新たな試みとして、レザークラフト体験も実施しました。レザークラフトでは、あさひが丘学園にて生活介護サービスを利用している利用者の保護者を講師に招き、小銭入れやキーホルダー作りを行いました。今回講師に招いた保護者は、レザークラフトを趣味としており、教室に通いながら、プロ顔負けのレザー作品を数多く作っていらっしゃいます。3名の講師の方達それぞれの特技を生かし、あさひが丘学園のサポーターとして協力して頂きました。参加された皆様も、材料選びから仕上げまで、親子での会話を楽しみながら思い思いの作品作りに励んでいました。参加者からは、「普段できない体験を、子どもと一緒に出来る場所が近くにあり、嬉しく思う」「今後も定期開催してほしい」「福祉施設というと、一般の人が行ってもよいのか迷っていたが、今回、このような体験を通して訪問できて良かった」等の意見をいただき、出来上がった作品に満足した表情を浮かべていました。

ワークショップ後は、あさひが丘乗馬倶楽部「シュバル」の出張乗馬で、あさひが丘学園の園庭にて、引き馬体験も実施しました。このように近隣の方々と交流し、いろいろな話を聞けたことは、私達職員にとって、とても貴重な時間となりました。これからも皆様に喜んで頂けるよう、交流の機会をたくさん設けていきたいと思ひます。

